

令和7年度 研究主題

心豊かに生活するための「自立活動」の探究

～個別最適な学び・協働的な学びの充実を目指して～



北海道中札内高等養護学校



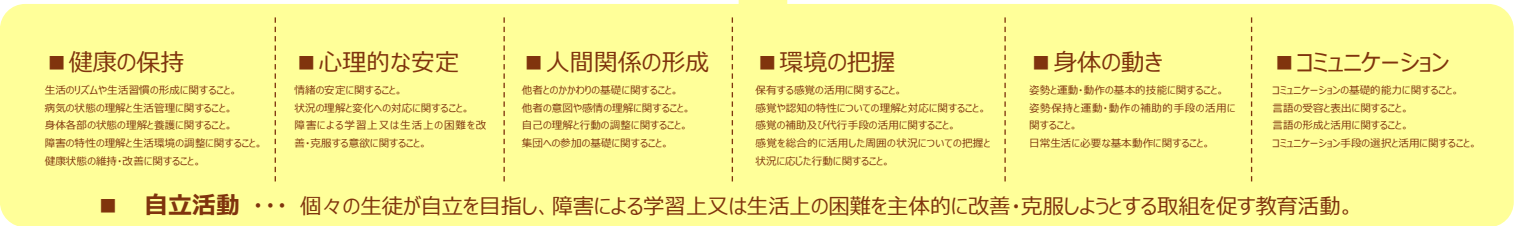
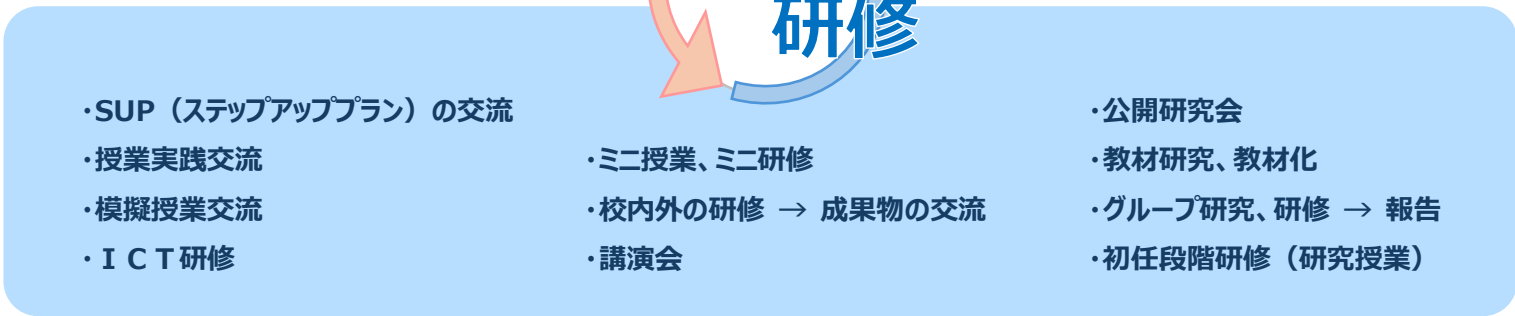
▲ホームページ

■ 研究構造



| 学校教育目標 |
|---|
| 心豊かに生きる力を育てる |
| 具体目標 |
| 1. 心身の健康を維持・増進する力(健康でたくましい心とからだ) 2. 人と関わる力(適切なコミュニケーション、素直な心) 3. 自分を整える力(自己の感情や行動の調整) 4. 主体的に生活する力(主体的に学ぶ姿勢) 5. 意欲的に働く力(働く力、働く喜び) |

| 校訓 |
|---------------------|
| 仲良く 明るく たくましく |



R 7 研究主題

心豊かに生活するための「自立活動」の探究

～個別最適な学び・協働的な学びの充実を目指して～

□ 仮説

・これまで授業改善に向けて実践してきた「主体的・対話的で深い学び」に関わり、重要な土台である「自立活動」に目を向けて、生徒指導や授業改善を行うことで生徒に必要な力は何かをこれまで以上に深めることができるだろう。

・「個別最適な学び」と「協働的な学び」について往還的な視点をもって授業をデザインし、適切な単元や題材を精査することで、成果や課題を洗い出し、今後に向けて教育課程改善の糸口を得る機会となるだろう。

■はじめに

「自立活動」という言葉は特別支援教育の場で幾度となく研究対象になり、今のなお、そうあり続けている言葉ではないでしょうか。それだけ関心が高く、それだけ奥が深く、そして理解しにくい、というよりは整理が難しい指導領域ということがこの事実からも窺い知れます。

本校では今年度より3か年計画でこの「自立活動」の研究を始めます。その初年度の歩みをこのリーフレットにまとめてあります。「実践と研修」を両輪とし、学ぶ教員すべてが何かしらの実感を得るよう工夫した取り組みなどが紹介されています。是非ともご覧いただき、忌憚のないご意見を本校までお届けしていただくと幸いです。

本資料をご覧の皆様もきっと「自立活動」に何かしらの想いを抱きこの研究記録をご覧になっているのではないのでしょうか。その想いに対し何らかのヒントや答えになるものが本書にあれば幸甚でございます。

結びに本年度の研究を進めるにあたり公開研究会で御講演をいただいた星槎道都大学特任教授 千葉聡美 氏 に深い感謝を申し上げご挨拶とします。

令和8年3月

北海道中札内高等養護学校 校長 佐藤 貴雄

■ 研究主題

心豊かに生活するための「自立活動」の探究

～個別最適な学び・協働的な学びの充実を目指して～

・自立活動をテーマとした研究は、3カ年の計画を予定。

1年目となる今年度は、自立活動について改めて学び、生徒一人一人の自立活動の目標や手立てを確認。授業実践の交流を実施し、個別最適な学び・協働的な学びの充実を図る。また、昨年度同様、講師を招いての講演会や、公開研究会も実施。夏季研修会（8月）では、コーチングをテーマに GRROW モデルを用いてディスカッション形式で実施。公開研究会（12月）では、「生きる力を育む自立活動の実践～心理的な安定、コミュニケーションに焦点を当てた学びの深化～」と題し、学校法人北海道星槎学園星槎道都大学社会福祉学部社会福祉学科所属の千葉聡美特任教授をお招きして実施した。

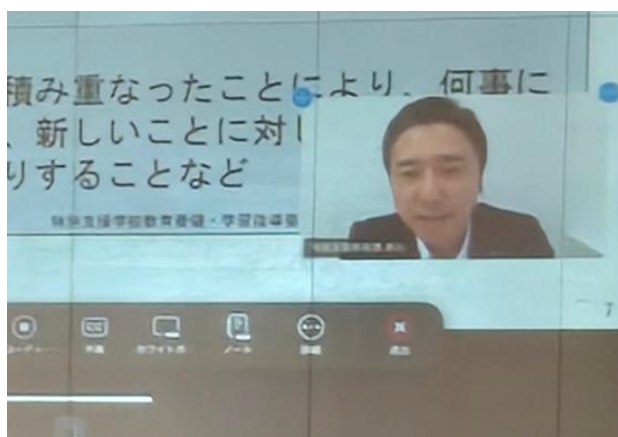
■ 推進日程

| 月 | 行事・業務予定 | 月 | 行事・業務予定 |
|-----|-------------------------|----|------------------------|
| 4 | 全体研究Ⅰ（30日） | 10 | 研究日④（17日） 研究日⑤（22日） |
| 5 | | 11 | 研究日⑥（26日） |
| 6 | 研究日①（4日） 研究日②（25日） | 12 | 研究日⑦（19日） 公開研究会 |
| 7 | 研究日③（18日） 夏季研修会（28日） | 1 | |
| 8 | | 2 | |
| 9 | | 3 | 研修促進費報告会 全体研究Ⅱ（18日） |
| その他 | 初任者研修（1年次）研究授業 | | |

■研究日①（6月4日）

・「自立活動」は、これまでの研究の「主体的にかかわる力の育成」にも関わってきたことではあるが、生徒指導や授業改善についても、今後の教育活動についても重要な土台となる。この日は、北海道立特別支援教育センターから高石純氏をお招きし、遠隔で講演を実施。自立活動の基本的な考え方として、その目的や意義についての理解や、特別支援学校学習指導要領に基づく内容の整理について、また、実際の指導事例をもとに、生徒の特性に応じた指導方法を本講演から確認。授業や指導の工夫と改善の視点から、個別のニーズに応じた指導計画の立て方や、学習や生活上の困難を克服するための具体的なアプローチについてもお話を頂いた。

対象として、本校職員の他、幕別分校の職員、そして「インクルーシブな学校運営モデル事業」の連携校である更別農業高等学校の職員の方々が参加した。



↓講演後の活動内容

・右に示した今年度の研究用シートを各学級に配布。各学級から生徒を1名抽出し、その生徒に対する実態自立活動の目標や手立てを、担任と副担任、また所属以外の先生方にも入っていただき、話し合って内容を記入。

研究日となった6月は、すでに担任を中心に前期の自立活動の目標が記載済みであるため、この内容に沿って、目標に対する担当授業での具体的な手立てや配慮を、抽出生徒の様子や周囲の状況や環境などから、慎重に考えて判断し、記入した。

裏面には、「授業参観シート」を付けて、グループで参観し、自立活動に対するアプローチがどうであったか、良かった点や工夫点を記載し、次回の研究日の資料とすることにした。

| 令和7年度 研究主題 | | |
|---|---|--|
| 心豊かに生活するための「自立活動」の探究 ～個別最適な学び・協同的な学びの充実を目指して～ | | |
| グループ名 | 0年 〇〇科 | メンバー： 中札太郎、中島貴さな、左内おん |
| 抽出生徒名 | 仲こうよう | |
| グループ内で出し合って入力します | | |
| ■生徒の実態 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・集中して他者の話を聴くことが苦手である。 ・自分の気持ちを優先してしまい、周りのことを考えることが難しい。 ・誰に対しても友達言葉になってしまいがちである。 | | |
| SUP 前期目標からそのまま抜き出します | | |
| ↓ | | |
| ■自立活動の目標（SUPより） | | |
| 自立活動 | 目標 | 手立て |
| | 周囲の状況を適切に把握し、時と場に応じた言動をすることができる。 環境の把握、コミュニケーション | 発言するときのルールを確認し、意識できるようにする。 休み時間と学習時間、友達と教師で意図を切り替えるよう言葉掛けをする。 |
| ■担当授業にかかわる自立活動の目標 ・授業名（数学） | | |
| 抽出生徒がいる授業をもっている先生方（MTでもSTでも可）は入力します | | |
| ■担当授業での具体的な手立てや配慮 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・衝動性から出し抜けに発言することがあるので、発言するときは手を挙げる、指名されてから答えるなどのルールを学習が始まる前に確認する。 ・学習時間と休み時間、友達や先輩、教師で意図を切り替えるよう、学習のルールをありにふれて確認する。 | | |

■研究日②（6月25日）

・研究テーマに沿って、5グループのミニ研修会を実施。
研修内容をまとめたシラバス（図参照）を参考に職員がそれぞれ聞いてみたい研修に参加。

▼研修内容

- ①「個別最適な学びと協働的な学び～ICTを活用した授業を例として～」
- ②「本校の自立活動を考える～ボードゲームを使った旭川高支の取組を例として～」
- ③「生徒の学びの捉え方～美術科・音楽科の共同学習を手がかりに～」
- ④「実態把握の工夫と共有」
- ⑤「生徒同士が協力して学ぶ【協働学習】の視点を取り入れた生徒会活動の充実について」

| | |
|--------|-------------------------------------|
| 研修タイトル | 個別最適な学びと協働的な学び ～ICTを活用した授業を例として～ |
| 担当者 | 長谷部 愛 |

| | |
|-------|---|
| キーワード | 個別最適な学びと協働的な学び ICT（GoogleClassroom・Jamboard・Google サイト） 全校一斉授業 1日防英学校 SNS |
|-------|---|

| | |
|-------|--|
| 研修の概要 | デジタルに強い人、というイメージを持たれているように感じているが、本は紙派、買い物メモも紙派、ふせんやペン大好き、ストリーミングサービスは一切契約しておらず、音楽も映像作品も現物（CDやBlu-ray）が欲しいタイプです。デジタルに強くなったのは大学時代のバイトと、趣味と、コロナ禍が大きなきっかけですが、デジタルが使えるようになったからこそ、アナログと使い分けたり、組み合わせたりすることが大切だと感じています。 この研修では、本校と前任校での「ICTを使った授業」をもとに、授業の目標を達成するための手立てや、授業の進め方のアイデアを増やすためのヒントについて考えます。 |
|-------|--|

| | |
|-----------|--|
| 研修の目標・ねらい | それぞれの授業の目標に向かって、生徒の実態に合わせて、指導方法や教材、学習時間等を工夫できるようになるための研修を目指します（個別最適な学びの指導の個別化や、協働的な学びについて考えるイメージ）。 |
|-----------|--|

| | |
|-------------|--|
| 研修の進め方、注意事項 | 基本は講義形式です。授業の最後に、受講者の「教材研究」についてお聞きします。どのようなところから授業のアイデアを得ているか、共有しましょう。 スマートフォンもしくは学校のiPad（数人で1台でもOK）をご持参ください。ご自身の学校アカウントでログインできるようにしておいてください。 |
|-------------|--|



| | |
|--------|--|
| 研修タイトル | 本校の自立活動を考える ～「ボードゲーム」を使った、旭川高支の取組を例として～ |
| 担当者 | 恩田真人、田中和賢 |
| キーワード | セルフプロデュース 個別セルフ 集団セルフ 自立活動 コミュニケーション |

| | |
|-------|--|
| 研修の概要 | 令和6年度末に視察した旭川高等支援学校では1時間目にセルフプロデュースという授業を設定して、自立活動を取り入れた学習を展開しています。 セルフプロデュースでは、生徒が担任と個別で面談をし、なりたい自分（夢）を確認したうえで、そこに近づくために各教科、日常生活などで頑張ることを確認し目標を設定、2週間後に評価と見直しを行う「個別セルフ」、体力の向上を目指す「集団セルフ」、生徒それぞれが強みを伸ばしたり弱点を克服したりするための「課題別セルフ」があります。 この研修では、「課題別セルフ」の中でもさらに「コミュニケーショングループ」での取り組みをもとに、本校の自立活動について、その内容や手立てなどアイデアを見つける時間になればと考えています。 |
|-------|--|

| | |
|-----------|---|
| 研修の目標・ねらい | 研究主題でもある「自立活動」の取り組みについて、本校の生徒の実態をもとに様々な視点から考える。 |
|-----------|---|

| | |
|-------------|---|
| 研修の進め方、注意事項 | 研修の中で、ご自身が日頃かかわっている生徒を思い浮かべ、「この教材は、この生徒のこの課題を克服するのに有効ではないか」など、参加者同士で意見交換ができるとよいですね。ぜひ、皆さんも、楽しみながら考える時間にならば幸いです。 |
|-------------|---|



| | |
|--------|--------------------------------|
| 研修タイトル | 生徒の学びの捉え方 ～美術科・音楽科の共同学習を手がかりに～ |
| 担当者 | 寺田 弘文 |

| | |
|-------|------------------|
| キーワード | 共同学習 授業効果 Q分類簡便法 |
|-------|------------------|

| | |
|-------|--|
| 研修の概要 | 昨年度3月、美術科と音楽科において更豊生徒が出席して共同学習が行われました。美術科は2年生の授業で、4名の更豊生徒が出席して創作活動が行われました。また、その3日には音楽科1年で合唱と器楽の授業が行われ、ここにも4名の更豊生徒が出席しました。 どちらの授業も、記述式の後アンケートには好意的な感想が書かれ、授業効果を測定する選択式のQ分類簡便法の平均値はとても高い結果でした。 この研修では、高い授業効果の要因を授業中の生徒の姿を基に考えたいと思います。また、意見交換を通して、研究テーマにアプローチする手がかりをつかんでいただければ幸いです。 |
|-------|--|

| | |
|-----------|---|
| 研修の目標・ねらい | 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に進め、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりのヒントを得る |
|-----------|---|

| | |
|-------------|--|
| 研修の進め方、注意事項 | 1. 研修の趣旨、アンケート結果の概要、調査方法とその結果の解釈について担当者が説明します。（10分） 2. 「共同学習」のダイジェスト動画を視聴します。（15分） 3. 生徒の様子やアンケートを手がかりに、高い授業効果の要因を探ります。（30分） 【グループ協議→全体交流】 協議題（ ）の中に入る適当な言葉を見つける 「今回の美術＆音楽の授業効果が高いのは、（ ）があったからだ。」 |
|-------------|--|

写真 研修の様子



| | |
|--------|----------------|
| 研修タイトル | 実態把握の工夫と共有 |
| 担当者 | コーディネーター 高橋、前谷 |

| | |
|-------|-----------------------------|
| キーワード | 行動観察 聞き取り 発達検査 気になる行動 適切な行動 |
|-------|-----------------------------|

| | |
|-------|--|
| 研修の概要 | この研修では、生徒の気になる行動の背景を理解し、適切な行動へと導くための実態把握の工夫について考えます。 私たち指導者には、生徒の発達段階や特性、家庭環境等を深く理解することが求められています。今回は、日々の教育活動の中で実践できる行動観察や記録方法、聞き取り等について理解し、明日から実践できるよう確認します。 生徒の気になる行動の裏に隠されたメッセージを読み解き、生徒たちが本来持っている力を引き出すための適切な行動を支援するために、どのような実態把握が有効なのか、みなさんで考えていきましょう。 |
|-------|--|

| | |
|-----------|--|
| 研修の目標・ねらい | 実態把握の工夫について知り、参加者同士が日頃の工夫について共有し合うことで、支援の幅を広げられるようにすることを目指します。 |
|-----------|--|

| | |
|-------------|--|
| 研修の進め方、注意事項 | コーディネーターより実態把握の方法についてお話しした後、先生方の日頃の取り組みについて意見交流していただきます。実態把握のツールとして何か使っているものなどがあればご紹介いただけると幸いです。 |
|-------------|--|

| | |
|--------|--|
| 研修タイトル | 生徒同士が協力して学ぶ【協働学習】の視点を取り入れた【生徒会活動】の充実について |
| 担当者 | 生徒指導部：林 郁美 |

| | |
|-------|--|
| キーワード | 発達支持的生徒指導、自己指導能力、相互作用、社会的スキル、自己有用感・達成感 |
|-------|--|

| | |
|-------|--|
| 研修の概要 | 生徒指導の目的を達成するために、生徒一人一人が自己指導能力を身に付けることが重要であることが生徒指導提言にも明記されています。学校・学年など同級生との関わりや生徒会活動など他学年の生徒との関わりを通して、自分の良さや課題に気付くとともに、自分の得意なことを生かしながら互いに学び合い成長していくことができるような【協働学習】の視点を取り入れた【生徒会活動】の充実について考えていきたいと思えます。 |
|-------|--|

| | |
|-----------|--|
| 研修の目標・ねらい | ・生徒一人一人が自分たちの力で学校がより良くなったという実感をもつことで、学校の活性化（学校課題、とくに生徒指導にかかる事柄について）を図る |
|-----------|--|

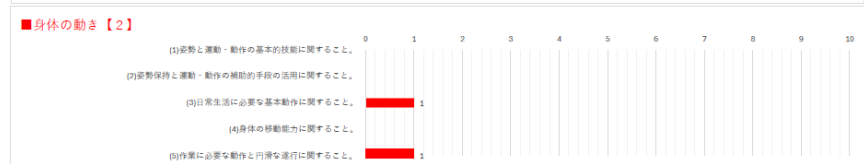
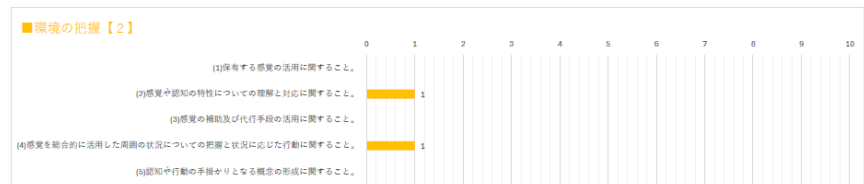
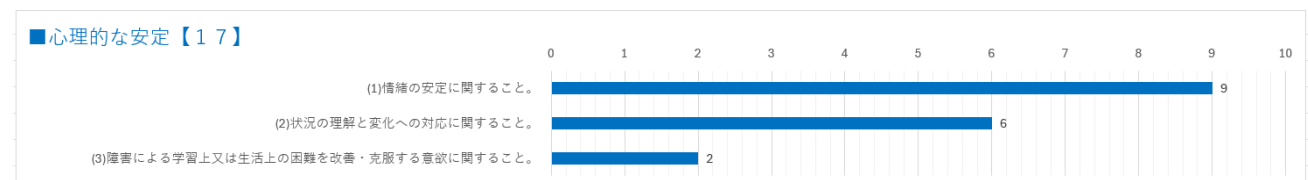
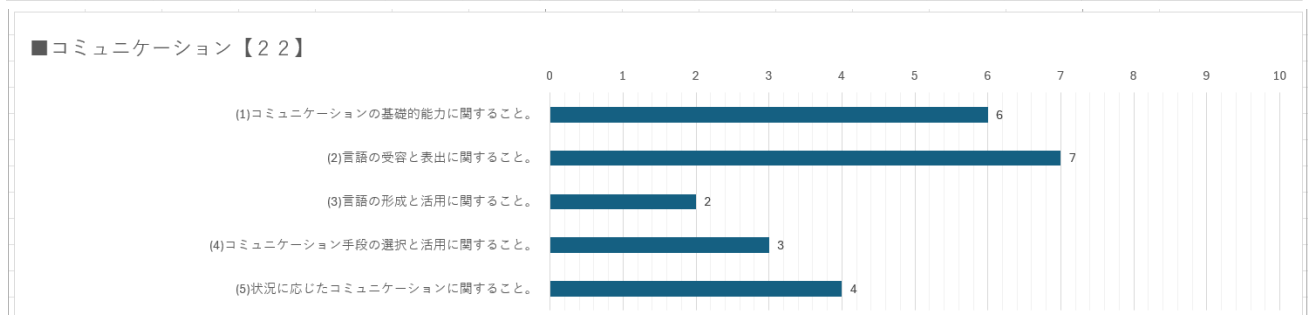
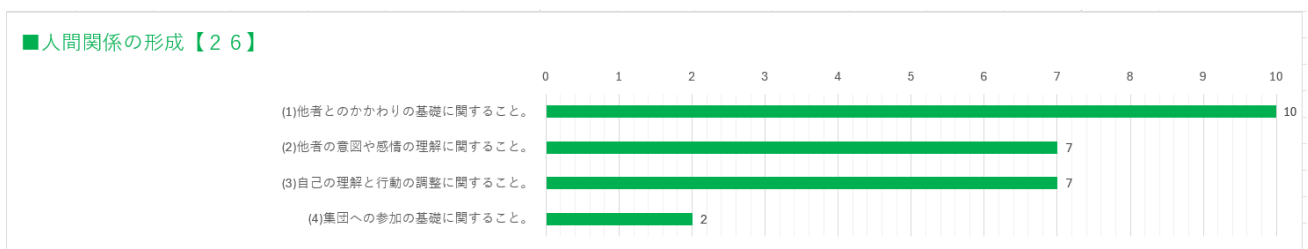
| | |
|-------------|--|
| 研修の進め方、注意事項 | 【協働学習】のメリットについて確認し、どのような取組であれば実践することができるのか、グループワークを行います。 「生徒の意見や発想をどのように生かしていくのか」、「一人一人が活躍できる場面や機会の設定」、「ICTの活用」、「ピア・サポート」などテーマを絞って考えていきたいと思えます。 |
|-------------|--|

■研究日③（7月18日）

・前期の成果や課題などをグループ内で確認。抽出生徒の自立活動に対する変容や目標と手立てについて授業実践を振り返り、効果的な取組や避けるべきパターン、課題となるケースを判断し、前期の評価を行った。また、この評価を基に後期の実態把握、自立活動の目標や手立ての参考にして、自立活動の目標と手立てを決定。個別最適な学び、協働的な学び、に対しても同様に振り返り後期に活かしていく時間とした。

・以下に示したグラフは、本校生徒の自立活動における重点項目の集計である。集計数の多い順に並べてみたところ、1番目は「人間関係の形成」、2番目に「コミュニケーション」、3番目に「心理的な安定」の結果となった。

この結果をもとに、公開研究会の講師の先生に講演をお願いする方向で動くこととした。



■夏季研修会（7月28日）

・毎年、夏と冬に講師をお招きして研修を行っているが、今年度の夏は、研修動画をもとに、後期の相談週間や進路面談などの生徒対応、会議や打ち合わせなど業務で役立つコーチングをテーマに一緒に考える時間とした。（会場：中札内村文化創造センター）

独立行政法人教職員支援機構(NITS)の動画を視聴
コーチングのスキルと活用 I(19 分)
コーチングのスキルと活用 II(15 分)

2 「GRROWモデル」で問題解決

(1) GRROWモデルとは

② GRROWモデル

(Sir John Whitmore 氏が開発したコーチングモデルの原型)

- Goal** …目標設定 (目標・結果・期限など)
- Reality** …現状の把握 (現在地・問題点など)
- Resource** …目標達成に使える資源
(人・物・時間など)
- Option** …選択肢の創造 (無限の可能性の創出)
- Will** …目標達成の意思 (約束・行動に移す)

GRROWモデルでディスカッション

- ・教師に必要なコミュニケーション能力
- ・生徒の言語活動の充実
- ・いじめへの対応
- ・生徒の豊かな心の育成
- ・ICTの活用



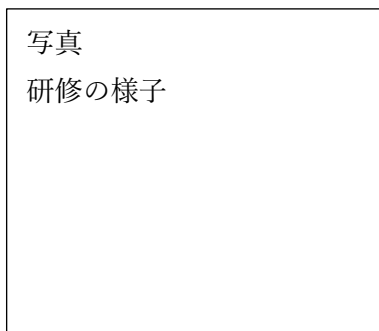
→夏季研修会で前期が終了。後期のグループ活動は、前期と同じ学級単位のグループで活動を予定。抽出生徒も、前期と同じ生徒で進めていく。

■研究日④（10月17日）

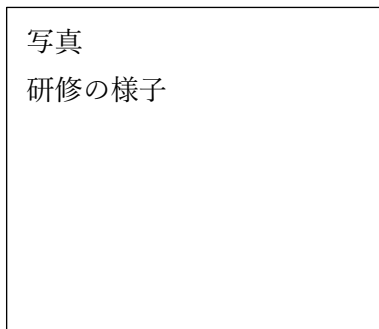
・研究テーマに沿って、3グループのミニ研修会を実施。研修内容をまとめたシラバス（図参照）を参考に職員がそれぞれ聞いてみたい研修に参加。

▼研修内容

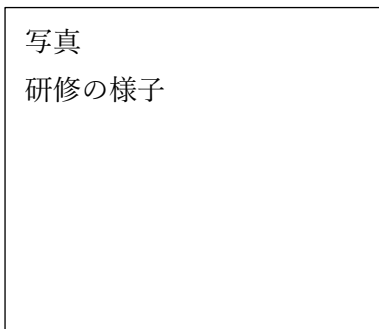
- ①「人気コンテンツから学ぶ～教科指導とカウンセリングマインド～」
- ②「言葉掛けを考える～こんな時、何て言えばいいの？～」
- ③「生徒の変容と学習環境設定」



| | |
|---|---|
| 研修タイトル | 人気コンテンツから学ぶ 教科指導とカウンセリングマインド |
| 担当者 | 長谷部 愛 |
| キーワード | ゲーム アニメ マンガ プロセカ 暗殺教室 鬼滅 ここ倫 etc... 個別最適な学びと協働的な学び 支援（寄り添い方） |
| 研修の概要 | |
| <p>海外からも人気を集めている日本のゲームやマンガ、アニメ。ストーリーの面白さや完成度ももちろん魅力ですが、ハッとさせられる場面や台詞がたくさんあります。自分の人生に影響を与えた作品があるという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そして教師視点で見ると、また違った発見があります。</p> <p>生徒も私も好きなコンテンツを、授業づくりや生徒指導にどう生かしているか、お話ししたいと思います。教材研究の参考となれば幸いです。</p> | |



| | |
|--|--|
| 研修タイトル | 言葉掛けを考える（こんな時、何て言えばいいの？） |
| 担当者 | 矢野 啓二郎 |
| キーワード | 言葉掛け 前向きな指導 課題に対して指導的立場 学びの方向性 生徒の気づきを促す 態度や姿勢に働きかける |
| 研修の概要 | |
| <p>学校生活の中で、日常的に、あるいは突発的に目にする「生徒に一声掛けなくなるような場面」。生徒の成長を支援し、指導する役割として、どんな言葉を掛けることができるのか、日々悩んでいます。このミニ研修が目指すものは、「完璧で理想的な教師」「絶対に怒らない指導」「一切叱らない言葉掛け」などでは決してありません。教師はついつい怒ってしまったり、イライラしたりすることもある・・・、そんな教師像を前提に、普段の言葉掛けを一緒に考えていければと思います。</p> | |



| | |
|--|--------------------|
| 研修タイトル | 生徒の変容と学習環境設定 |
| 担当者 | 佐野 祐之 |
| キーワード | 学習環境 家庭との連携 居場所づくり |
| 研修の概要 | |
| <p>学級の生徒（FK）を例としてお話ししたあと、生徒が学習に参加するための環境づくりについて、皆さんと交流したいと思います。</p> <p>皆さんの普段の実践について、ざっくばらんにお話できると嬉しいです！</p> | |

■研究日⑤（10月22日）

・2月25日（火）9：00、更農の学校設定教科・科目

「カルチバージョン」で「オンライン共同学習」を実施。

本校から3名の生徒が参加。

主題「岡田家の日曜日」

葛藤場面

「明日は月曜日だが学校行事の振替で休日。久しぶりにゆっくり起きることができると思っていた岡田Tですが、妻から『明日は休みなんだから、朝食つくってよ!』、さて…。」
展開の概要（①～③はグループで意見交換）

- ①みんなが私の立場ならどう感じる？妻にどう伝える？
- ②妻の立場になるとどうだろう。どんなつもり？
どうしてそう言ったのだろうか？
- ③私も妻も気持ちよく明日の朝を迎えるにはどうしたらよいだろうか？
- ④グループで交流した解決方法を発表する。



中高養の生徒が発表した時の様子。この後、拍手が起こりました。

カルチバージョン学習指導案（略案）

| | | | |
|------------------|--|--|--|
| 対象生徒 | 1年生/中高養抽出生徒3名 | 指導日時 | 1A：令和7年2月25日（火）1校時 1B：令和7年2月27日（木）3校時 |
| 単元名 | SST | 学習場所 | 1-A/1-B |
| 題材名 | SST～日常にある葛藤や感情について考える～ | 指導者 | MT：岡田匡史 ST1名 |
| 本時の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの感情について考え、既存のアーサシヨンの学習を生かしながら、よりよい課題解決の方策を考える。（聴・辨・表） ・1つ1つのお題に対して、自分の考えを書いたり、発表したりして取り組むことができる。（学びの力） | | |
| 時間 | 生徒の学習活動 | 教師の指導 | 留意点/教材・教具 |
| 1分 | ※1Aについてはオンラインで中高養とつないでおく。 | | パソコン（クロムブック2台・スピーカー） TV |
| 1分 | ・自席に着席して待つ。 【挨拶】 | ・号令担当を指名する。 ・本時の活動を説明する。 | |
| 30分 | ・号令に合わせて挨拶をする ・本時の説明 ①SST ②アンケート、振り返り 【学習開始】 ③SST【岡田家の日曜日】 ・グループになる。 ・スライドを見て、目標と本日のテーマについて知る。 目標：日常にある葛藤（様々な感情が対立すること）について考え、よりよい課題解決の方策を見つけよう。 | ・パワーポイントを使用して、目標とテーマについて説明する。 | パワーポイント |
| 7分 | 演習 ○付箋 (chat) にお題について自分の考えを記入する。 | ・取り組み方について簡単に説明する。 ・話し合いの様子を見て、時間を調整する。 | プリント付箋 |
| 7分 | ①こんな状況みんなが私の立場ならどう感じる？妻にどう伝える？ ②妻の立場になるとどうだろう？どんなつもり？どうしてそう言ったのだろうか？ | | |
| 10分 | ③先生も妻も気持ちよく明日（12月9日）の朝を迎えるにはどうしたらよいだろうか？ ④それぞれのグループで出した課題解決の方法について発表する。 | ・発表するグループを指名していく。 | |
| 5分 | ・アンケート記入 ・振り返りシートに記入 | ・アンケートについて説明する。 ・振り返りシートに記入するよう伝える。 | アンケート用紙 |
| 3分 | ・次回の学習内容を知る。 ・日直の号令に合わせて挨拶をする。 | ・次時の学習内容を説明する。 ・挨拶する。 | |
| 反省・生徒の様子等（授業後記入） | | | |
| 1A | | 1B | |

○「オンライン共同学習」授業アンケート結果

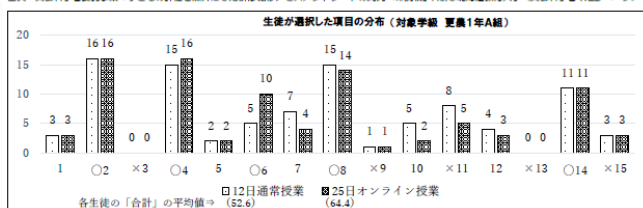
| 生徒 | 合計 | 選択番号 | 感想 |
|----|------|--------------|--|
| 1 | 40 | 1 7 11 12 15 | あまり思いつくものがなかった。 |
| 2 | 80 | 2 4 6 8 10 | グループで活動して色々なアイデアや考えを見ることができました。 |
| 3 | 100 | 2 4 8 6 14 | 楽しかった。 |
| 4 | 100 | 2 4 8 6 14 | 今回はアーサシヨンを生かしてやるグループワークがとても楽しかったです。 |
| 5 | 公欠 | | |
| 6 | 20 | 1 7 12 10 11 | 内容(考える)が難しく、考え辛かったです。 |
| 7 | 100 | 2 4 6 8 14 | 普段とは違う授業で楽しかった。 |
| 8 | 60 | 2 4 6 8 11 | おもしろかった。中高養さん優しい回答でよかった。自分もそうしたい。 |
| 9 | 20 | 2 7 4 5 11 | 交流授業ということでできちょうとしたけど、しっかり考えをまとめることができた。 |
| 10 | 40 | 2 4 8 12 15 | 自由に考えられた。 |
| 11 | 100 | 2 4 6 8 14 | 今回の授業でグループワークをたくさん進めることができ、とても楽しかったです。 |
| 12 | 40 | 2 4 14 15 1 | 日常にありがちな面白い話題だなと思いました。 |
| 13 | 100 | 2 4 6 8 14 | |
| 14 | 60 | 2 4 8 11 14 | はじめてのオンラインでとても楽しかった。 |
| 15 | 60 | 2 4 5 7 8 | オンラインでの授業の目的が少し気になる授業でした。 |
| 16 | 公欠 | | 注：上記生徒はモデル事業の一環であることを理解しておらず、純粋に「なぜ、中高養とオンラインで結ぶのだろう。」と思ったとのこと(翌日確認) |
| 17 | 100 | 2 4 6 8 14 | |
| 18 | 60 | 2 4 8 14 9 | 他の学校との関わりもあり、楽しかった。 |
| 19 | 100 | 2 4 6 8 14 | 2人とも気分良く終わるのは嬉しいから、少しでも平等になれるようにしたいと思います。 |
| 20 | 100 | 2 4 6 8 14 | 中高養ととも交流してもいいと思いました。 |
| 平均 | 64.4 | | |

| 生徒 | 合計 | 選択番号 | 感想 |
|----|-----|--------------|--|
| 1 | 40 | 2 6 10 14 15 | よかった |
| 2 | 40 | 2 4 7 11 14 | 自分の立場と相手の立場を考えられる良い授業だったと思います。 |
| 3 | 100 | 2 4 6 8 14 | とても楽しかったけど、あいてのせいとかお声がきこえるようにしたい、せいとがわ、先生がみえるようにしてもらいたい。 |
| 平均 | 60 | | |

【上の表の「合計」の算出方法と意味】

- 授業後、生徒は右の15項目から「授業を受けた後の気持ちに似ている」と思うものを5つ選びます。
- 選んだら項目の「配点」を合計します。
- 「合計」の最大値は100、最小値は-100になります。これを開発した道教育大学附属創道中学校（現、義務教育学校）は、得られた結果（合計）は「教科にかかわらず、授業によって学習者が学習一般または、その学習領域に対して内発的・即時的に動因づけられる程度を示している。」としています。

出典：文部科学省委託事業「子どもの様子を詳しくした研修転移アセスメントシートの開発への挑戦」R6.3北海道教育大学（文部科学省 WEB ページ）



■研究日⑥（11月26日）

- ・前期の生徒の様子や変容、目標と手立て、評価を改めて各グループで確認した。それを受けて、後期の生徒（前期と同じ抽出生徒）の目標や課題点を共有し、各授業の指導場面や、変容や様子、これまでの取組の進捗状況を交流し、今後の方向性を確認して、研究シートに記録。
- ・さらに、次年度以降の研究の参考として、教育活動全体で自立活動を行っていくにあたって、「こんなことができたらい」「指導に活かすために、こんなことを学びたい」「こんなことが正直分からない」など、各グループで話し合い、意見を集約した。

写真
グループ活動の様子（体育館）

11.26 研究日の
学級ごとのグループに分かれて、抽出生徒を中心に、
今後の授業や学校生活で取り組むことを話し合いました！ ※終了後、いちど用紙を集めます。

グループ _____ 年 _____ 科

参加メンバー： _____

抽出生徒の後期目標（自立活動）

後期目標の手立て（自立活動）

グループで話し合うにあたってのポイント！

- ・生徒と目標や課題を共有していますか？
- ・指導する場（どこ、どの場面）が明確になっていますか？

ここまでの進捗状況（手立てを講じてみてどうか？）

今後の指導の方向性（後期評価までにできること）

■研究日⑦（12月19日）

- ・公開研究会を見据えて、職員全体で3グループに分かれて研修。

| 担当・係 | 12.25（当日）の業務 | 12.19（研究日）の研修内容 |
|------------------|-------------------------|--|
| 総務 （研究部） | 全体進行、連絡調整ほか | 研究日進行 |
| 受付 （各学年3名以上） | 受付、資料配付、会場案内 | 公開研終了後アンケート（校内向け）作り、 資料丁合ほか → Google フォームの使い方 |
| 記録 （各学年5名以上） | 写真及びビデオによる記録 Zoom 接続 | 大教室での zoom 設定 （画面・カメラ・マイク・音響設定）の確認 → zoom の使い方 |
| 駐車場 （各学年2名以上） | 駐車場案内 | 公開研終了後アンケート（校内向け）作り、 資料丁合ほか → Classroom の使い方 動画編集など |

■公開研究会（12月25日）

- 目的：教育関係者等をはじめ、様々な方に授業の研究実践を公開することにより、本校の教育活動への理解と、本校職員の専門性や指導力の向上を図る機会とする。
- 期日：令和7年（2025年）12月25日（木）（集合形式、遠隔形式）
- 会場：北海道中札内高等養護学校 〒089-1345 北海道河西郡中札内村東5条南1丁目8番地
TEL (0155)68-3266 FAX (0155)67-2077
(集合形式の他、Zoomによる遠隔形式)
- 対象：教育関係者等
- 日程
8:45 【受付】・Zoom 接続開始
9:00 【開会】
9:10 【全体会】今年度の研究テーマについて、今年度の実施内容について、
インクルーシブな学校運営モデル事業について
9:45 【講演会】自立活動について
11:15 質疑応答
11:30 【閉会】

6 内容：

【全体会】（説明：本校研究部）

今年度の研究テーマ「心豊かに生活するための「自立活動」の探究～個別最適な学び・協働的な学びの充実を目指して～」にそって、全体研修やグループ毎の研修を計画的に推進してきた。今年度の具体的な取組と、12月までに見えてきた成果と課題について報告する。また、文部科学省の「インクルーシブな学校運営モデル事業」の委託による「交流および共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方の検討・実証」について、更別農業高等学校と取り組んできた活動と連携して進めている内容についても報告する。

- 【講演会】 演 題：「生きる力を育む自立活動の実践」
～心理的な安定、コミュニケーションに焦点を当てた学びの深化～
講 師：星槎道都大学 社会福祉学部 社会福祉学科 特任教授
千葉聡美氏

■講演当日は、先生の豊富なご経験に基づくお話に、参加した職員一同が深く耳を傾け、特に、「できる」よりも「変わった」と実感できる指導の大切さについて、日々の実践を振り返る大きな契機となった。

生徒の行動の背景に目を向け、その子が抱える事情を理解しようとする姿勢こそが、自立活動の根幹であるということ、各生徒の目標設定に至るまでのプロセスや、心理的安定・コミュニケーションの育成に向けた具体的な支援の在り方について、職員同士が活発に意見を交わすきっかけとなり、本校職員一同これからの教育活動をより深めていくうえで、確かな道標となるものであった。

■全体研究Ⅱ（3月18日）

- ・公開研究会、今年度の研究を終えて

成果

- ・抽出ではあるが、生徒の目標や手立て、指導場面、評価を学級で検討し、生徒情報を共有することができた。
- ・ミニ研修をとおして、個別最適な学びと協働的な学びのヒントを得ることができた。
- ・教育活動全体で行う自立活動への意識が高まった。

→ 自立活動は、教育活動全体で行うため、正直わかりづらさもある中であつたが、研究テーマにしたことで、これまでできていたことに目を向け、意識できるようになった。

自立活動についての話題が職員室で出るようになったこと、初任者の研究授業への参観者が増加したことも、変化の表れの1つではないかと考える。

課題

- ・研修を中心に行ってきたが、内容を実践に生かす、学びを共有する、授業改善に繋とは、あまりできなかった。
- ・学級ごとの授業参観を計画したが、数人の先生しか実施できなかった。

→ 変化がある一方で、どう授業改善をしたらよいかわからず、実践に繋げることが難しい現状もあった。学級のグループ活動で使用したワークシートの自由記述欄には、「自立活動の研修を多くしてほしい」「自立活動の手立てをどう講じたらよいのかわからない」「他の先生にも、学級の生徒にかかわってもらいたい」といった内容があつた。

授業参観が難しい、実践共有ができていない現状もある。

■次年度の研究主題案と仮説

心豊かに生活するための「自立活動」の探究

～チームによる実践共有を通じ、自立活動の視点を日常に生かす支援の探究～

- ・交流、体験型学習環境の中で、生徒の挑戦意欲やコミュニケーション意欲を高めることで、生徒の行動や学習態度に肯定的な変化が生まれるだろう。
- ・自立価値道の視点を日常の授業・生活場面に生かすことで、教師が生徒の状態をより正確に把握でき、支援の質が高まるだろう。
- ・日常的に評価（観察・記録）が行われれば、成長の兆しを見逃さず、支援の方向性を柔軟に調整できるだろう。